

サイエンスアゴラ in 仙台 2019&東北大学 SDGs シンポジウムを開催しました

指定国立大学法人東北大学と国立研究開発法人科学技術振興機構は、令和元年11月5日（火）と6日（水）の2日間にわたって「サイエンスアゴラ in 仙台 2019 & 東北大学 SDGs シンポジウム」を両機関の共催により開催しました。本シンポジウムは、「東北から『持続可能で心豊かな社会』を創造する」をテーマに、「科学と社会の対話」をコンセプトとして3つのセッション構成で実施されました。

初日に行われたセッション1「新たなエネルギー価値観が拓く持続可能社会」（会場：東北大学片平さくらホール）では、材料科学高等研究所長・折茂慎一教授の開会挨拶に続き、東京大学の大学院総合文化研究科広域システム科学系客員教授で先端科学技術研究センター社会連携部門・シニアプログラムアドバイザーの小林光様による「エネルギー関連技術への期待：環境行政の経験から」と題した基調講演が行われました。続いて環境科学研究科長・土屋範芳教授からセッション1の狙いの説明があった後、東北大学の取組として東北大学エネルギー価値学創生研究推進拠点メンバーの先生方からの講演が行われました（材料科学高等研究所長・折茂慎一教授、環境科学研究科・駒井武教授、流体科学研究所・石本淳教授、多元物質科学研究所・本間格教授、金属材料研究所・河野龍興特任教授、環境科学研究科長・土屋範芳教授、経済学研究科・日引聡教授）。

その後ゲストトークとして、秋田県仙北市総務部地方創生・総合戦略統括監の小田野直光様、宮城県富谷市企画部企画政策課長の松原誠様、そして台湾交通大学のJong-Shinn Wu教授から講演を頂きました。

11月6日はセッション2「新たなエネルギー価値観創造に向けた科学と社会の対話」、セッション3「プラスチックスマート：プラスチック問題から見るSDGs」と「社会にインパクトある研究」ポスターセッションが行われました（会場：仙台国際センター大ホール・桜1）。

セッション2では、東北大学理事・副学長の原信義教授から主催者を代表しての挨拶に続き、科学技術振興機構理事佐伯浩治様から共催者を代表しての挨拶を頂いたのち、NPO法人国際環境経済研究所理事・主席研究員の竹内純子様より「2050年のエネルギー産業：日本のエネルギーの大転換」と題した基調講演が行われました。続いてエネルギー価値学創生研究推進拠点長の土屋範芳教授から「新たなエネルギー価値観創造」に向けた東北大学の取組について説明がなされた後、「国や自治体の取組」として文部科学省環境エネルギー課長の横地洋様、経済産業省資源エネルギー政策統括調整官の覚道崇文様、環境省地球温暖化対策事業企画官の加藤聖様、宮城県副知事の遠藤信哉様、宮城県富谷市長の若生裕俊様、宮城県東松島市副市長の小山修様、仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室エネルギー政策担当課長の中道由児様、秋田県仙北市総務部 地方創生・総合戦略統括監の小田

野直光様、三重県志摩市産業振興部水産課水産振興係長の山川貴重様からの計 9 講演と、「国研・産業界の取組」として国立研究開発法人産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所長の中岩勝様と大成建設株式会社設計本部設備計画部長の豊原範之様から取組事例を紹介する講演が行われました。

セッション 3 は、JST 地域産学官社会連携分科会ワークショップ、東北大学プラスチックスマート戦略のための超域学際研究拠点キックオフとして、まず環境科学研究科松八重一代教授より東北大学の取組に関する説明が行われた後、研究の最前線として、環境科学研究科吉岡敏明教授、国際文化研究科劉庭秀教授より講演が行われました。その後取組の事例紹介として、公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク山形裕昭様、環境系学生サークル海辺のたからもの代表東北大学 3 年畠山 紳悟様、鹿児島県沖永良部島和泊町役場企画課長の皆吉泰智様、知名町役場企画振興課長の高風勝一郎様、一般社団法人日本キリバス協会代表理事のケンタロ・オノ様（ビデオメッセージ）より講演がありました。その後松八重教授・吉岡教授・劉教授・皆吉様・高風様に加え宮城大学 副学長・事業構想学群長教授の風見 正三 様、アイ-コンポロジー(株) 取締役の小出秀樹様をパネリストとし「社会課題の解決に向けた自治体、大学、企業の役割を考える」をテーマとしたパネルディスカッションを開催し活発な議論が行われました。

同時開催された「社会にインパクトある研究」ポスターセッションでは 17 のプロジェクトから取組に関する発表がありました。最後に国立研究開発法人科学技術振興機構「科学と社会」推進部長荒川敦史様の閉会挨拶で締めくくられました。

セッション 3 終了後は、ワンウェイプラスチックを使用しないネットワーキングディナーを行い、ポスター展示やセッション 3 で講演・議論内容を図案化したグラフィックレコーディングの完成品を囲んだ活発な交流会となりました。

本シンポジウムは研究者・行政機関・企業・市民団体・市民・学生など幅広い参加があり、2 日間 3 セッションの参加者合計は 378 名にのぼり、盛会のうちに終了しました。



開会挨拶を述べる折茂慎一材料科学高等研究所 (AIMR) 所長・教授 (11 月 5 日セッション 1)



東京大学大学院総合文化研究科 広域システム科学系・客員教授/東京大学先端科学技術研究センター 社会連携部門・シニアプログラムアドバイザー 小林 光 様による基調講演 (11 月 5 日セッション 1)



主催者挨拶を述べる原 信義東北大学理事・副学長（11月6日セッション2）



共催者挨拶を述べる国立研究開発法人科学技術振興機構理事佐伯 浩治様（11月6日セッション2）



NPO 法人 国際環境経済研究所 理事・主席研究員竹内 純子 様による基調講演（11月6日セッション2）



「新たなエネルギー価値観創造」に向けた東北大学の取組について講演する土屋範芳環境科学研究科長・教授（11月6日セッション2）



東北大学プラスチックスマート戦略のための超域学際研究拠点の取組について説明する松八重一代環境科学研究科教授（11月6日セッション3）



JST・東北大学共催による JST 地域産学官社会連携分科会ワークショップの様子（11月6日セッション3）



セッション内の講演・議論を可視化するために実施されたグラフィックレコーディングの様子（11月6日セッション3）



プラスチック漂着ごみ回収や ZEB の取組などの展示（11月6日セッション3）



東北大学「社会にインパクトある研究」ポスターセッション - 東北大 SDGs チャレンジ - の様子（11月6日）



閉会挨拶を述べる国立研究開発法人科学技術振興機構「科学と社会」推進部長荒川敦史様（11月6日セッション3）



「プラスチックスマート：プラスチック問題から見るSDGs」会場の様子（11月6日セッション3）

問い合わせ先：

環境科学研究科 環境研究推進センター

E-mail： erpc*grp.tohoku.ac.jp（*を@に置き換えてください）